

トレーニング指導者養成校・養成機関科目対応表

様式3

1. 一般科目

学校名： ●●大学

No.1

領域	科目名	対応する科目または講習科目(複数記載可) ※2科目以上の履修を必須とする場合には当該科目を()で囲む
A. 体カトレーニング総論	体カトレーニング総論	体力学、トレーニング理論
B. 機能解剖	機能解剖(1)上肢	解剖学Ⅰ、機能解剖学
	機能解剖(2)脊柱と胸郭	解剖学Ⅰ、機能解剖学
	機能解剖(3)骨盤と下肢	解剖学Ⅱ、機能解剖学
C. バイオメカニクス	バイオメカニクス(1)基礎理論	バイオメカニクス、身体運動学
	バイオメカニクス(2)スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	バイオメカニクス、身体運動学
D. 運動生理学	運動生理学(1)呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	(運動生理学、運動生化学)
	運動生理学(2)骨格筋系・神経系・内分泌系と運動	生理学、(運動生理学、運動生化学)
E. 運動と栄養	運動と栄養(1)運動と栄養の基礎理論	栄養学、栄養学基礎
	運動と栄養(2)対象と目的に応じた栄養摂取	栄養学、スポーツ栄養学
F. 運動と心理	運動と心理(1)運動と心理の基礎理論	スポーツ心理学、心理学
	運動と心理(2)運動学習と指導法	スポーツ心理学
G. 運動と医学	運動と医学(1)生活習慣病	スポーツ医学、成人保健学
	運動と医学(2)スポーツ傷害	スポーツ医学、スポーツリハビリテーション
	運動と医学(3)救命救急法	(救急処置法、スポーツ医学)

該当する授業が複数ある場合には、読点(、)で区切り、併記可

この場合、『体カトレーニング総論』は「体力学」または「トレーニング理論」いずれか1つの授業単位の修得で受験資格を満たします

科目の内容を実施するために複数の授業の履修が必要な場合には、括弧で囲む

この場合、『運動生理学(1)』は「運動生理学」と「運動生化学」の2授業の単位修得により受験資格を満たします。『運動生理学(2)』は「生理学」のみ、または「運動生理学」と「運動生化学」の2授業の単位修得により受験資格を満たします。

対応科目について：括弧【例：(授業A、授業B、～)】で囲まれている科目は、該当する全てを履修することで受験要件を満たすこととします。
括弧を付けずに複数科目が記載されている場合【例：授業A、授業B】には、いずれか1科目を履修することで受験要件を満たすこととします。

2. 専門科目

学校名： ●●大学

No.2

領域	科目名	対応する科目または講習科目(複数記載可) ※2科目以上の履修を必須とする場合には当該科目を()で囲む
A. トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割	運動指導論、コーチング学Ⅰ
	トレーニング指導者の実務	(運動指導論、体育施設運営論)
B. 測定と評価	トレーニング効果の測定と評価	測定評価論、体力測定実習
	測定データの分析とデータの活用	(体力測定実習、統計学)
C. トレーニング理論とプログラム	長期的トレーニング計画	(トレーニング論、運動処方論)
	レジスタンストレーニング	トレーニング学、トレーニング科学Ⅰ
	パワートレーニング	トレーニング学、トレーニング科学Ⅰ
	持久カトレーニング	(トレーニング論、運動処方論)
	スピードトレーニング	(トレーニング論、運動処方論)
	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー	(トレーニング論、運動処方論)、コンディショニング論
	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	トレーニング理論、健康体力づくり概論A
	生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム	(健康管理論、スポーツリハビリテーション)
D. トレーニングの実技と指導法 ※実習を伴う内容であることが必要	レジスタンストレーニングの実技と指導法	トレーニング実習
	パワートレーニングの実技と指導法	トレーニング実習
	持久カトレーニングの実技と指導法	トレーニング実習
	スピードトレーニングの実技と指導法	トレーニング実習
	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法	トレーニング実習、フィットネス概論

専門科目Dは、いずれの科目も実習(実技)を伴う内容であることが必要です

対応科目について： 括弧【例：(授業A、授業B、～)】で囲まれている科目は、該当する全てを履修することで受験要件を満たすこととします。
括弧を付けずに複数科目が記載されている場合【例：授業A、授業B】には、いずれか1科目を履修することで受験要件を満たすこととします。